

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201121		
法人名	社会福祉法人 和福祉会		
事業所名	グループホーム庄の里「和らぎの家」全体		
所在地	倉敷市上東819番1		
自己評価作成日	平成30年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広いフロアでいつでも声が掛けあえ皆で会話を楽しめる明るく元気な空間を作っています。毎日利用者の要望を聞きながら、脳トレを毎日取り入れ利用者の方のやる気を引き出す事に力を入れています。共同の作品作りでは、季節を感じる作品作りを行い毎年恒例の庄の里で行われている文化展に出品しています。文化展には他事業所の作品も展示されており見学に行くことも楽しみとなっています。年間行事では、庄の里の他事業所と連携をとり、保育園児と一緒に芋の苗植えと芋掘りを行い収穫を楽しんでいます。今年初めての事業所合同の秋祭りを行いご家族と楽しい時間を作ることが出来ました。散歩では、近隣に保育園や中学校があり、子供達や地域の方と挨拶を交わし地域交流が出来る恵まれた環境にあります。利用者のご家族の思いを暮らしの中に取り入れ、人と人とのつながりを大切に支援しています。

ここ数年来、岡山県の大半の地域で介護職の人手不足が深刻な状況が続いている。その逆境のさなかであって、ホーム長を始めとして少数精鋭の正職員は真摯な姿勢で利用者と相対している。一日の訪問中でも色々な場面や記録の中で誠実さに心打たれた。こういった心配をよそに利用者の皆さんは両ユニット共に意欲満々。共同で作品を創る時の利用者同士のやりとり・周囲の割れる様な笑い声に動じる風も無く塗り絵に熱中している人等々、百歳を目指そうとしている方々がこれ程集中して楽しめる幸せを強く感じた。しかも、出来上がった作品はセンスも素晴らしい。リビングや居室に貼られた作品は「声かけ」も各人の思いに添った優しい対応で、笑顔と笑顔が広がっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて、職員が理念の唱和を行い共有し実践している。又ご家族への満足度アンケートより、職員の理念の再確認を実行している。	数多くの介護事業所を持つ法人「和福社会」の基本理念としては「明るい笑顔・元気な挨拶・丁寧な仕事」を掲げているが、職員は「例えば朝この理念を意識してから仕事に入る」「目と目を合わせ明るく挨拶しながらその人の状態を丁寧にみる」等、日々実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と畑を利用して、芋の苗植えや収穫をおこなったり、地域のイベントに参加して、馴染みの方との交流を行っている。運営推進会議への参加を頂き、ご家族、地域の方の参加により交流をしている。	ホームのお隣が保育園や中学校といった、地域密着型サービス施設として好条件の立地と言えるこのホームは、今後色々な可能性を秘めている。開設以来、地域の方々の協力も得て地域交流の実績を少しずつ積み重ねているところである。	ホーム開設から数年という状況なので、あまり焦る事なく少しずつ地域交流の輪を広げていって下さい。子供達や近所の方と散歩中の挨拶等、自然なお付き合いも良いので、「日常的な外出支援」も兼ねてご近所付き合いを進めましょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域の行事、夏祭り、広報誌やホームページにて「和らぎの家」の運営や日常の様子を写真等で伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型の小規模多機能「つどいの家」と合同で運営推進会議を行っており、内容の報告や意見を求めたり町内会のサロンの説明会に参加して地域の方に説明を行いサービス向上に努め地域の行事等の情報得て参加等に繋がっている。	利用者本人・家族・民生委員・地域住民・駐在所員・その他多くの参加を得て、ホームの活動や状況報告・意見交換をしている。記録は綿密で「ここに来てよく話すようになった」「ホームでの生活のメリットは大きい」等、参加者の声も見られた。	ホームの職員体制等リスク面についてもこの会議で報告していて、ホームの運営やサービスの取り組みを包み隠さず検討していこうとする姿勢が伝わってくる。今後も事故やヒヤリハットの報告もして参加者の意見・アドバイスを頂いて下さい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からの意向で市町村担当者にお問い合わせ等行っている。事業所からも質問を行い協力関係を築いている。運営推進会議に町内の役員の方の出席があり協力関係を築き地域活動に参加している。	日常的には定期的に開催している運営推進会議で情報交換や指導・アドバイスを適宜頂き協力関係を築いている。2名の市の介護相談員の顔写真がリビングに貼られ、利用者も周知出来るようにしている。個別の相談としては生活保護申請時にお願している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年に4回委員会を開き勉強会を行い、全体会議で内容を説明している。他の職員にも内容を都度全員に会議の内容を説明周知している。日頃からの意識を持つようマニュアルはいつでも閲覧出来るようにしている。	身体拘束・虐待防止等、委員会での研修だけでなく、常に職員間で意識し注意し合ったり話し合うようにしている。禁止の対象となるような具体的な事例はないが、接遇や心のケアからの視点で重要課題として取り組んでいる。	拘束の具体的な行為の理解は当然の事であるが、言葉かけや表情に関する対応まで配慮しようとしている。「安全と尊厳の両立に悩む事は多いが『自分がその立場に立ったら』を目安にしている」との言葉から次のステップに向けて期待している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止について施設内研修や勉強会を行なっている。定期的に会議等で話し合いを行うようにしており、資料はいつでも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修等で権利擁護等について勉強会を行い資料は閲覧出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な説明を行い納得して頂いた上で署名捺印を頂いている。契約後もいつでも質問等に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見を述べやすいように、意見箱や要望用紙を工夫して、ご家族の意見を頂きやすい環境作りを行っている。年度末に満足度アンケートを郵送して意見を頂き取り組んでいる。	面会時や電話対応・毎月の家族への暖かいお便り・その他色々なチャンスを作って家族からの意見を聞こうとする姿勢が見られる。家族の立場から意見を言う事はなかなか難しいと思うが、工夫を重ねて今後も努力しようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や全体会議で職員へ議題等意見や要望を聞き会議で検討を行いサービスの向上に努めている。	ホームの職員体制や職場環境が確立するプロセスの段階にある現在、管理者を中心としたリーダー的職員の心の絆が今日のホームをよく支えている。各種会議での意見交換だけではなく、日々の申し送りや話し合いの中で意思疎通が上手く出来ていると思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回施設目標に対して各人目標を設定して達成度等面接を行い意見の交換を行い評価して次の目標に繋げている。それを賞与や昇給に反映させ各自向上心を持つように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や委員会に属しており各自参加している。施設内研修議事録をサイボーズにて全員が閲覧出来るようにしている。日頃から職員の意見や意向を聞くことを行い研修に参加して研修内容を全体会議で発表して皆に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の運営推進会議に参加し職員に報告行い取り入れたり、他の研修、会議に参加し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報を職員間でカンファレンス等を行い共有して利用開始時に混乱が少なく利用できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人家族の思い要望を聞いて不安に思うこと等を伺い、混乱が少ないようにご家族としっかり連携を取っている。入所中は思いに沿ったケアプランや処遇を検討し支援している。状態の変化によりご家族の思いも取り入れ見直しを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族にサービス内容を説明して意向を確認し、思いに添うように努め意見交換を行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちに寄り添い利用者が行いたい思いを受け止めて一緒に考えその時に希望している事を行い共に生活し共有することに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「和らぎの家」の生活の様子や体調面等を面会時や手紙で伝えている。体調に変化ある時や精神的に不安定なときはご家族に連絡を行い電話や面会等をお願いして家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人隣人の方の訪問時に、交流の場を設けている。ご家族の了承あれば友人との外食等行っている。職員は馴染みの関係を作れるように声掛けや話しやすい場を提供し支援している。	これまでの生活の中での馴染みの関係を大切にしており、孫の経営するケーキ屋と一緒に食べに行き、本人の喜ぶ姿を見て職員も感動したり、知人の営む美容院に通っている人もいる。家族・知人・友人等の訪問も多く、訪問しやすい環境作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の気持ちや意向から、トラブルになりそうなときは早めに対応してフロアの席や環境に気を配り利用者が過ごしやすく落ち着いた生活が出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に再度いつでも相談出来る体制の説明を行い、連絡があった時はいつでも相談を受ける体制をとり支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴やご家族の情報から本人の意向に添った希望や意向を検討して好きな事を提供出来るように支援している。	利用者の「あしたい。こうしたい」という思いをしっかり受け止め、家族からの本人情報も収集して、ケアプラン等にも反映している。本人からは食べ物の希望に関する意思表示が多いそうだが、意思疎通の難しい人には、ふだんの会話や表情から思いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の意向家族の情報、職員と利用者との関わりから好きな事や生活リズムを把握し取り入れ支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の気持ちを生活の中のコミュニケーションから把握し現状の生活の過ごし方をご家族と相談検討し今まで取り組んでいなかったことも提供し好きな事を見つけるように努めている。		
[	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中の課題を職員間のカンファレンス等で共有し本人の意向をケアプランに反映し職員全員で取り組んでいる。モニタリングにより見直しを行い現状に即した状態のケアプランを作成するように努めている。	「本人の望ましい生活像」(長期目標)には、本人・家族の意向が具体的に明記しており、その意向に基づき職員間で話し合っケアプランを作成している。介護記録を見ると短期目標に沿ったケアを実践していることが確認できる。心理面・精神面をよく把握し、ニーズを掘り起こして次回のプランにつなげている。	介護記録の特記事項欄の記述が分かりやすく、ポイントが効率よく書いてある。もっと欲を言えば、これはと思う所にサブタイトルをつけるとか、時系列に少し間隔を開けて記入すると、更に見やすい記録になると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を反映して日々の変化を見逃さないようにして、変化がある時は個別記録に残して申し送りを行いカンファレンス等を行いケアプランの見直しを行い支援するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン作成時利用者本人の意向を聞き作成を行い作成後にご家族のお話や日中の会話から本人の意向を見つけ確認している。随時相談を行いニーズに柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向に添えるよう工夫し支援を行う。又外出の希望があれば計画し実行するように努め地域の行事等に参加している。安全で豊かな生活になるように支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に主治医の選択はご家族にお願いし「和らぎの家」の主治医の選択あれば情報の連携を図る。他の医療機関の定期受診はご家族にお願いし都度手紙や職員の同行等にて情報提供をしている。	職員に看護師が配置されており、綿密な看護記録を作成して利用者の状態を把握しているので、職員にとっても心強い情報源になっている。認知症専門医からのアドバイスもケアに取り入れながら、介護と医療の連携がよく出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故体調不良時の際は、必ず看護師管理者に連絡行い指示を仰いで、主治医への連絡受診等行い職員にも都度連絡ノート等を活用して共有して対応している。ご家族に随時連絡報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時は本人の面会や家族との連携をとり、主治医等から情報収集を行いカンファレンスを行なっている。職員間で情報の共有を行い退院時には、生活環境を整え支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者御家族に意向を確認して看取りの指針に沿って説明を行い理解していただいている。主治医、職員家族で方針を共有しチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や全体会議等にて緊急時の対応の研修を行っている。事故発生時はマニュアル通り連絡処置を行いカンファレンスをして、初期対応応急処置等の再確認を行い看護師からの指導を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練(日中・夜間想定)を実施している。運営推進会議参加者、利用者の参加により、避難・誘導・通報訓練、消化訓練を行っている。防災会社の方に協力を得て隣接の小規模多機能「つどいの家」とも連携を取り訓練を行なっている。	隣接する小規模と夜間を想定した合同避難訓練を実施する他、災害対策・事故防止の研修も行なっている。また運営推進会議に併せ避難訓練を実施して、自然災害時の対応や施設での取り組み等、参加メンバーと意見交換をしている。	2階から1階への避難用非常階段を有効に活用する方法もあると思うので、様々な避難のパターンを想定して、その一つの経路として実践してみてもいいだろう。他ホームでの担架やマットレス、布団等を使った事例も参考になるかもしれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方を尊重して環境作りを行い、プライバシーを損ねないように努めている。	人権擁護・個人情報についての研修をして、特にプライバシー保護に関しては、人としての尊厳を損ねないように日頃から声かけや接遇等、職員は意識しながら丁寧に対応している。トイレ介助、入浴介助時の羞恥心への配慮も欠かさないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日々の生活の中から意向を聞き、散歩やクラフト活動の意向や外出等季節を感じる事が出来る事を聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各人の思いに添って声掛けを行い体調等各人のペースに合わせて行動したり皆で共有する時間も設けてコミュニケーションを行うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が選択する声掛けを行い化粧等を自分で行う方の環境作りを支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を聞き意向を組み入れ嚥下の悪い方には体調に合わせたメニューや食材調理の工夫を行っている。利用者各自が役割を持ち落ち着いた生活が出来るよう支援している。	本部の栄養士が立てた献立表を基本としながら、買い物・調理は日々職員が担当している。広々としたオープンキッチンリビングと一体化し、食事を待つ間も利用者の五感を刺激する。小さな一口大のおにぎりを美味しく食べる人の傍で、いろいろ世話を焼く利用者の姿も微笑ましく感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の1日の食事量や水分量を把握して摂取量のチェックを行い、食事量に変わりがある時は好きなものを提供したり、水分を嫌う方には飲み物をゼリー等に変えたりして声掛けの工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下体操により嚥下機能保持を行っている。口腔ケアの際口腔内の状態を把握して協力歯科医や歯科衛生士へ連携をとる協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄出来るように声掛けや排泄パターンから誘導を行い支援している。皮膚の状態等によりリハビリパンツを布パンツに変えたり綿の肌着等の工夫をしている。	日中は布パンツで過ごす人が半数以上おり、リハビリパンツから布パンツへと改善された例もあり、自立支援に向けて取り組んでいる。業者から紙おむつの当て方講習を受けたり、皮膚疾患対策を話し合う等、その人にとって快適に過ごせる方法を常に模索している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の際声かけにて水分補給の大切さを説明し体操や歩行訓練を行っている。飲みやすい物や牛乳、寒天ゼリー等を提供し工夫し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日としている。本人の意向等に合わせて入浴出来るようにしている。入浴が嫌いな方はご家族の協力もお願いして気持ちよく入浴出来るように工夫し清潔を心がけている。	浴室には手すりが沢山付けてあり、安全性に配慮してある。以前は入浴拒否の激しい人もいたが、現在は殆どの方がスムーズに入浴出来ており、湯舟にゆっくり浸かってもらっている。シャワー浴は数名。体調によっては清拭・足浴も適宜している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調に合わせて日中の散歩や活動、休息、就寝時の入眠時間を工夫し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効能副作用等都度看護師より職員に理解確認を行っている。ご家族には、往診や体調不良時の薬の処方等連絡を行い症状を記録に残して主治医看護師ご家族職員の連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から好きな事を探して運動やクラフト活動散歩や季節の行事等を行っている。家事手伝い等は職員とともに役割を持って支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活の中から本人の希望等意向を聞く様にして、外食や買い物等ご家族と一緒に過ごす行事を設けている。地域のイベントに参加して外出出来る機会を設けてに支援している。	秋の一日旅行は毎年の楽しみの行事であり、今年は農マル園芸に行った。その他にも個別外食、外食ドライブ、花見等々、機会あるごとに外出する事を心がけている。日常の散歩に加え、隣接する小規模多機能ホームでのイベントに参加する事もちょっとした外出気分を味わえ、良い気分転換になっている。	学校や住宅地の中にあり、お店も近いので今後は「買い物にも行きたい」という課題をあげていると聞いた。恵まれた環境を活かしていけるような企画をして職員皆で取り組んで下さい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルが起きないように利用時に本人が持ち紛失した場合の説明を行い理解していただいている。利用者にお金を家族から預かっていることを伝え行事等で使える機会を設けて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が連絡したい意向あれば電話したり友人からの電話もご家族の了承を得て受けている。ご家族から本人への電話もいつでも受ける事が出来るようにして連絡後も混乱ないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるように、皆で作品作りを行い完成した作品をフロアーや居室に掲示し話題作りをしている。利用者が不快な思いや混乱をしないように席や空間の工夫をしている。夜間部屋に廊下の灯りが入り気になる方は、小窓等に工夫を行い支援している。	リビングや廊下に展示されている数々の作品は季節感に溢れ、とてもセンスが良い。職員にアイデアマンが多く、利用者と共に一生懸命取り組んでいると聞いた。レクに興じる場面、創作活動に熱中している場面等、一日の中でも様々な余暇活動を見る事が出来、活気のある明るい共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーや長い廊下を歩行し職員と会話できる景色を楽しめるソファを用意している。混乱あるときは席の工夫や自室等落ち着く場所を聞いて気分を変える場所を提供し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用時に昔から愛用していた物や衣服等を持参して頂いている。居室は居心地よく安全に過ごせるように本人ご家族の意向から環境作りを支援している。	〇〇さんの居室を訪問すると、自作の作品で飾り付けられた華やかな室内を誇らしげに説明してくれた。ここまで自由に自分のペースで過ごしている例は少ないだろう。又、愛用の化粧箱を持参し、毎日化粧を欠かさない人もいて、個性を尊重しながらどの部屋も居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活が出来るように環境整備を行い安全に使用する説明を行ううようにしている。職員が本人と一緒に使用して理解できるように支援している。		